

父性愛の目覚め

本田義信

いわき市立総合磐城共立病院未熟児新生児科

父性愛はいつ、どのように生まれるものなのでしょう。

同僚に聞いてみると「子供が生まれ対面してすぐ」という答えが多くありました。子供が生まれると、親は無条件に子供を愛し、即座に深いきずなで結ばれるという考え方があり、これはそれを証明しています。妊娠中から父親になる決意、喜び、父親になりたいという気持ちを育んでいたのでしょう。しかし一方で「生まれた当初は自分の子と思っても、かわいいとは思えなかった」という答えもありました。

妊娠中、母親は胎動から子供の情緒を読み取り、胎児を1人の人格と認め、母親になる心理的準備をします。父親は大きくなるおなかを見て、自分が父親になることを喜び自覚する一方で、突然の変化に実感が湧かず、それが何か別世界での出来事のように感じる人もいるでしょう。

出産直後、父親はそれまで実感することのなかった「自分の赤ちゃん」と対面し、心の準備もないまま父親になってしまいます。心理学的に親子関係は「ない」所から始まり、徐々に発達するといわれています。父親はすでに長くわが子と接触を持っていた母親と違って、この時から赤ちゃんとも相互作用を繰り返す、積み重ね、徐々に父子関係をつくっていくかなければなりません。そして自分は父親として、今、何をすべきなのかわからず、戸惑いを覚えながらも、父性愛を培う決意をします。

自分の場合をここで告白します。一番目の子の場合(事情があり完全

ミルク)、毎日お風呂に入れ、泣きやまなければ母親の代わりに抱っこをして泣きやませ、夜の授乳も時々交代し、あやして笑う姿を見てかわいいと感じていました。しかし、無条件にこの子をかわいく思い自分の子だと強く実感できたのは、生後6か月ごろにようやくです。それは授乳の時に目が合い、子供がにこっと笑いかけてくれたときです。きっとこの時、子供が「お父さんありがとう」と言っているような気がして確かな意志の疎通を感じ、父親としての自分を自覚できたのではないかと思います。

生まれたばかりの新生児を母親の腹部に腹臥位で乗せると、30~50分で母乳の乳頭まで移動し吸吮を始める能力があります。2番目の子の場合(今度は完全母乳)、1か月くらいの時に、

体を斜めにして私のおなかの上に乗せてみると、やはり必死になって斜面を上がってくるのです。手を添えてあげると力強く足で蹴り、胸まで上がり、そして顔を左右にふっておっぱいを探し唇をならします。しかし、おっぱいがないのがわかると大きな声で泣き出しました。私はその姿を見て、この子の強い意志、何より強い生命力に触れた思いがして感激し、強く抱きしめ、体中を舐めまわしてあげたいくらい愛おしく感じました。この赤ちゃんは、自分では何もできず、全て受け身で、無抵抗で、弱くもぞもぞ動くだけの単なる生物ではない、と心から感じる事ができたのです。

これを読んだ助産婦さんも、ぜひ父性愛についても考えてみて下さい。

